

# 秋田県における ニホンジカの 生息状況と剥皮 被害

林業研究研修センター 菅原悠樹



# 1. シカの特徴-外観-

## ○シカ



角あり(オス)、角なし(メス)

赤みのある茶色、白斑あり

## ○カモシカ



頭部

黒く小さな角(オス、メス)  
目の下に黒点あり(眼下腺)

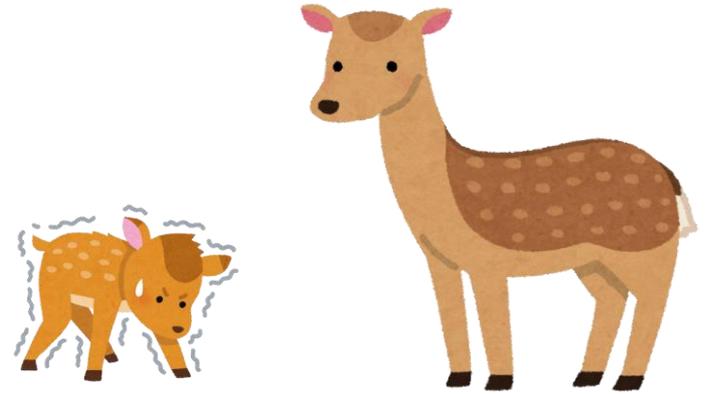
体色

黒っぽい茶

# 1. シカの特徴-生態-

- 繁殖力大

- 満1歳から毎年出産可能
- メスの生存率が高い



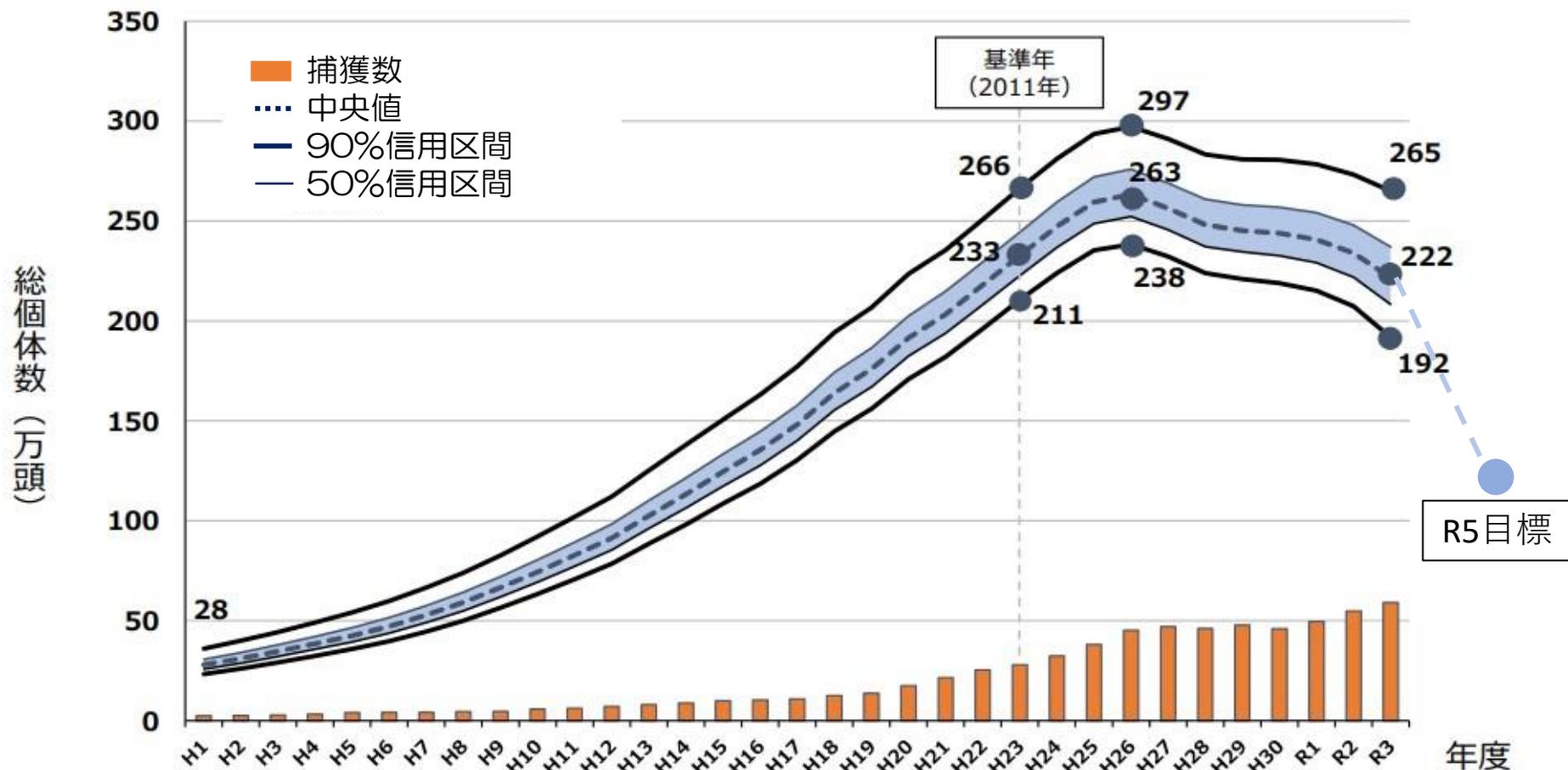
- 柔軟な食性

- 草本・木本の両方を食べられる
- 餌不足の場合は落ち葉を食べることも



# 1. シカの特徴-分布-

ニホンジカの推定個体数の推移（本州以南）

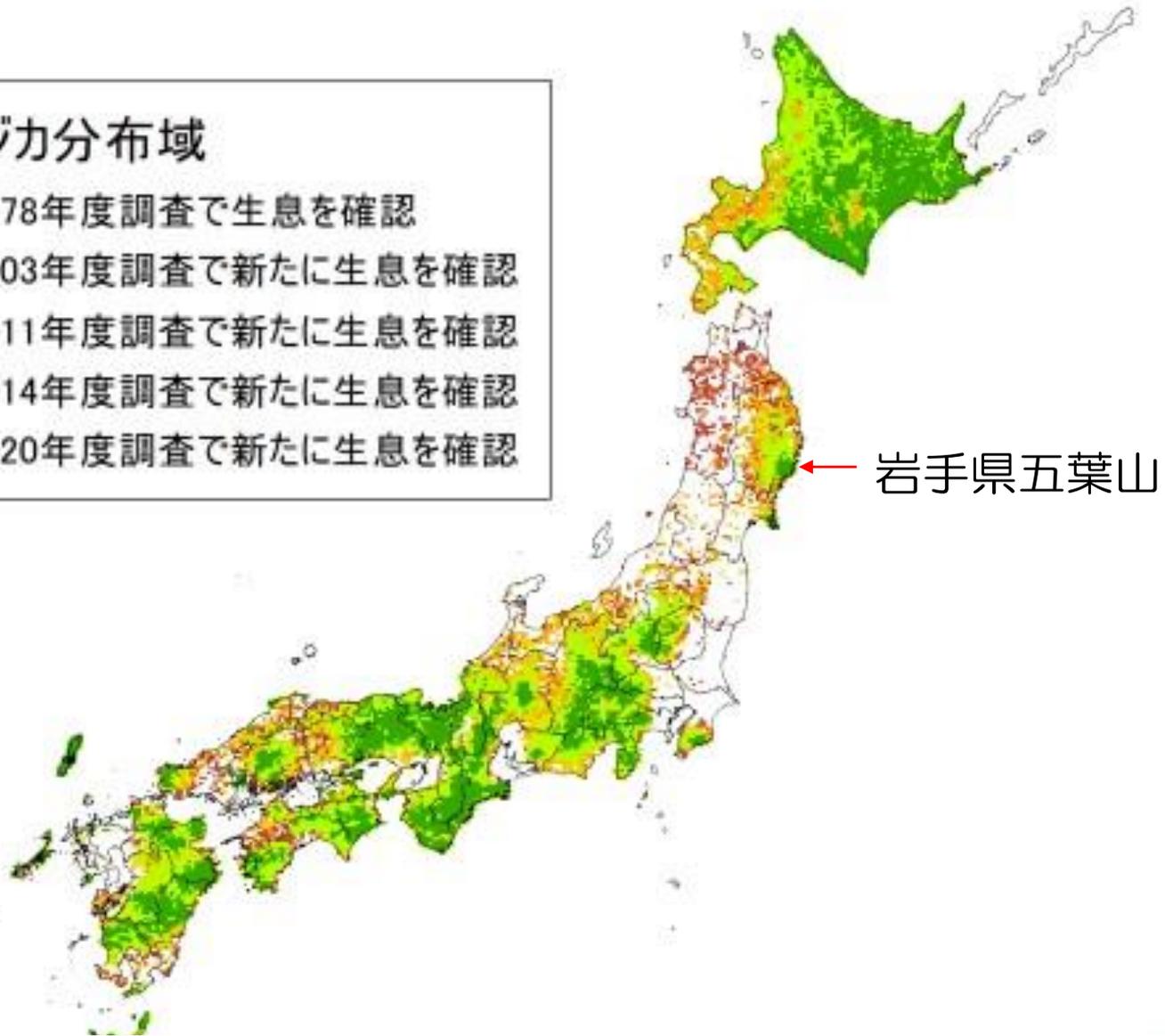


※ 令和3(2021)年度の自然増加率の推定値は、中央値1.20(90%信用区間:1.17-1.23)

※ 令和3(2021)年度の北海道の推定個体数は、東部地域31万頭、北部地域18万頭、中部地域20万頭、南部地域3~20万頭(北海道資料)

※「令和3年度ニホンジカ及びイノシシの個体数推定及び生息状況等調査業務」(環境省)により作成

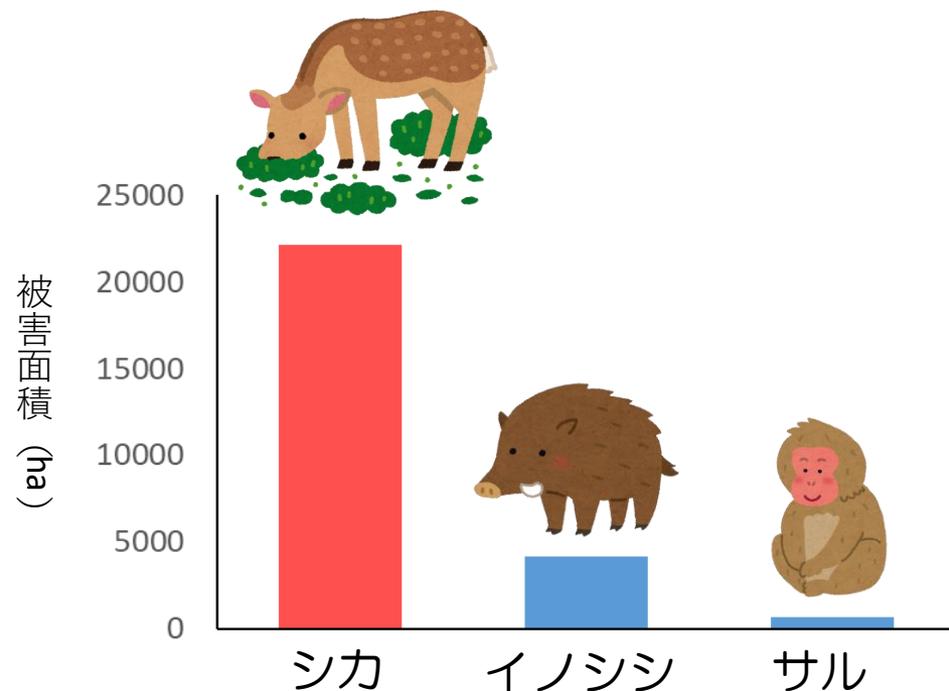
# 1. シカの特徴-分布-



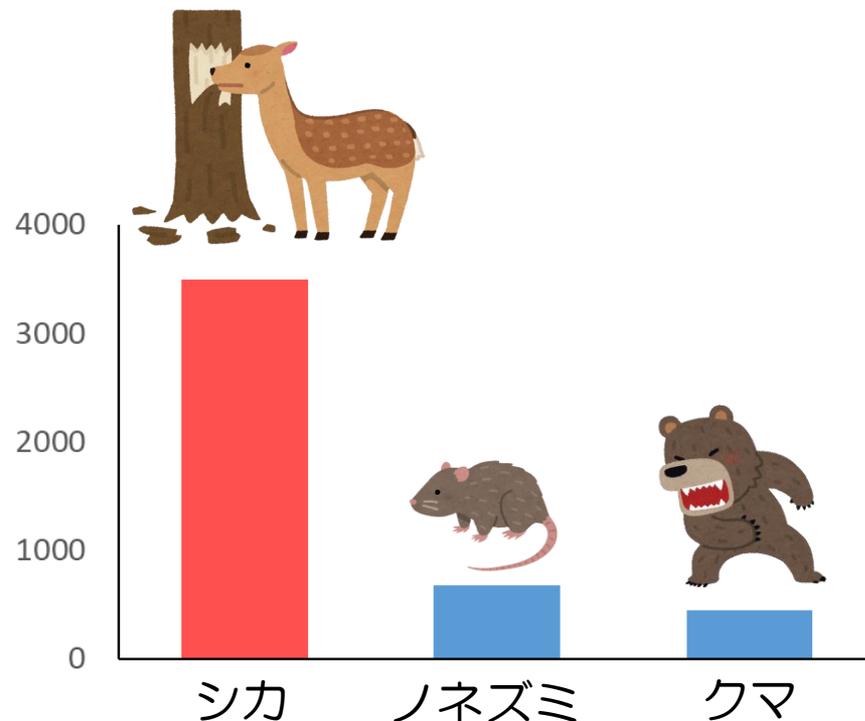
※「令和2年度ニホンジカ及びイノシシの個体数推定及び生息状況等調査業務」(環境省)により作成

# 1. シカの特徴-被害-

## 農業被害



## 林業被害



被害面積は下記より引用

「主要な野生鳥獣による森林被害面積について」(林野庁HP)

「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和3年度)」(農林水産省HP)

個体数が増加した地域では深刻な被害が生じている

# 1. シカの特徴-被害-



「野生鳥獣による森林被害」(林野庁HP)から転載

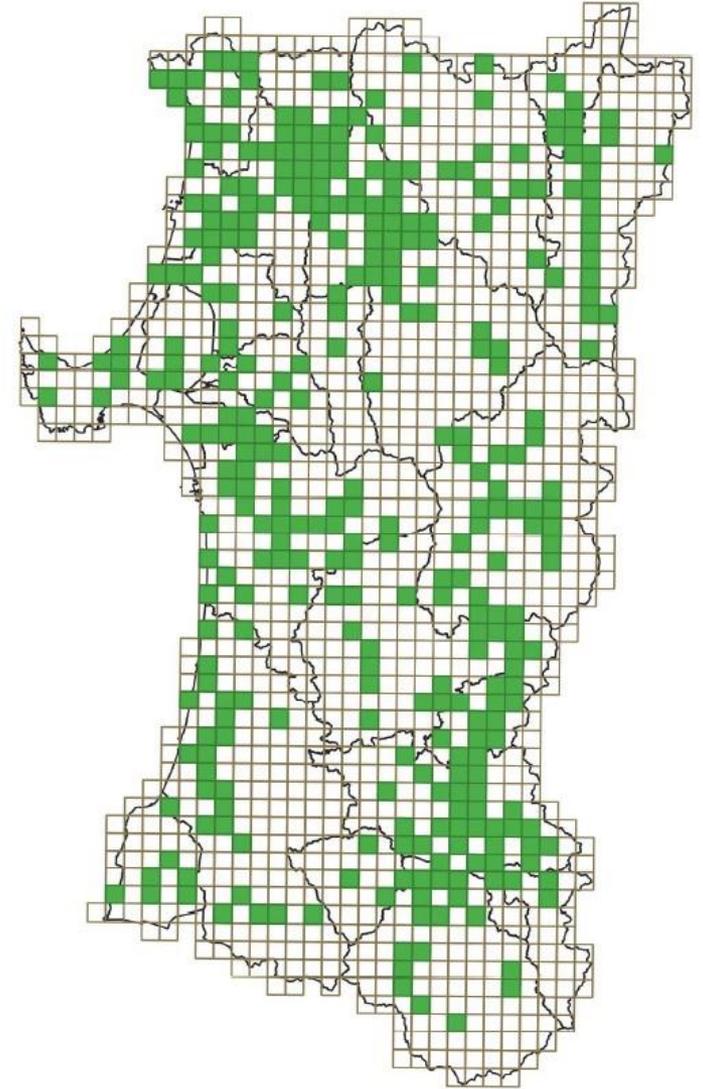
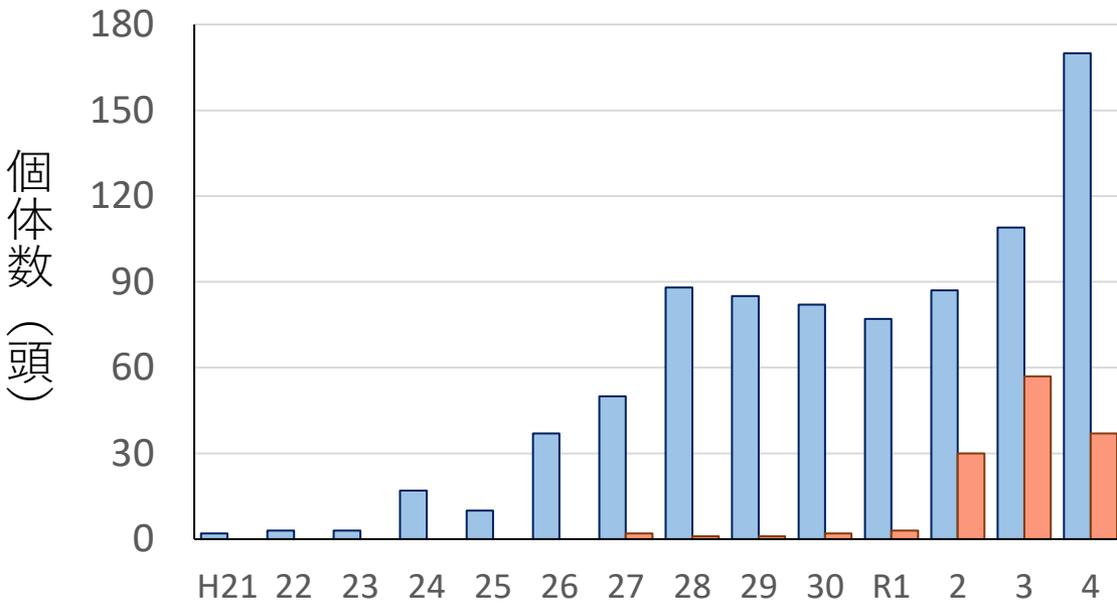
- 食害による下層食性の消失 (写真左)
- スギ人工林の剥皮 (写真右)
- 再造林したスギの食害

# 2. 秋田県の状況-分布-

H21-R4 ニホンジカ目撃等位置図

秋田県におけるシカ目撃等頭数・捕獲頭数の推移

■ : 目撃等頭数    ■ : 捕獲頭数



自然保護課資料より作成・引用

## 2. 秋田県の状況-剥皮害-

スギ立木の剥皮害  
(仙北市西木R4.3月撮影)



リンゴの剥皮害  
(横手市増田R4.5月撮影)



## 2. 秋田県の状況-対応-

ニホンジカの特定期鳥獣管理計画(H29～)

増える前に捕獲!!

- 捕獲圧を強化
- 個体数増加、生息域拡大の抑制
- 農林業、生活環境、生態系への被害を最小限に抑える

課題

低密度下では捕獲が困難

- 生息密度が低く遭遇しにくい
- 警戒心が高く人工物を避けやすい



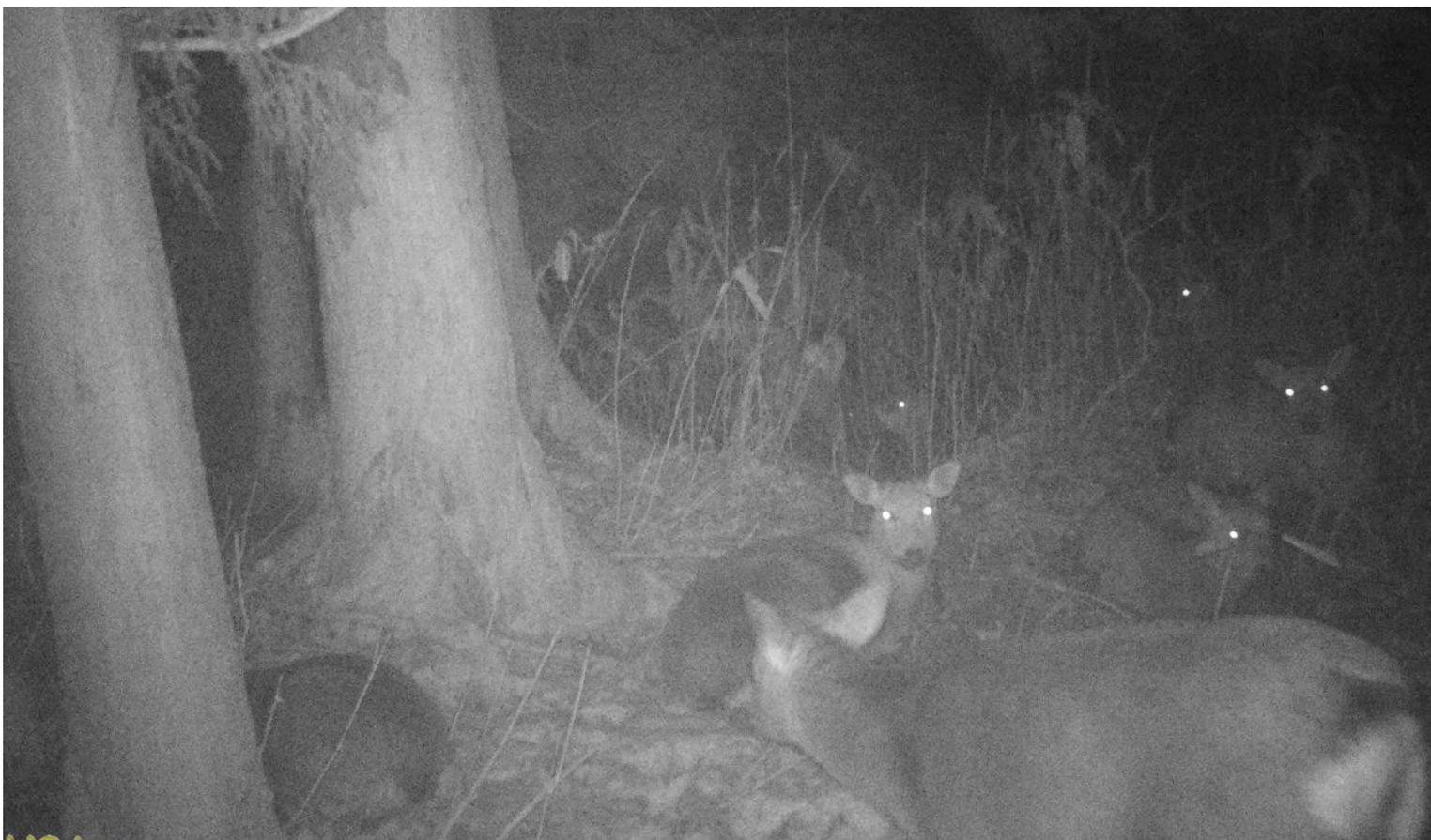
捕獲効率を高められる可能性がある越冬地に着目

## 2. 秋田県の状況-越冬地調査-

### ○積雪が深い地域のシカ

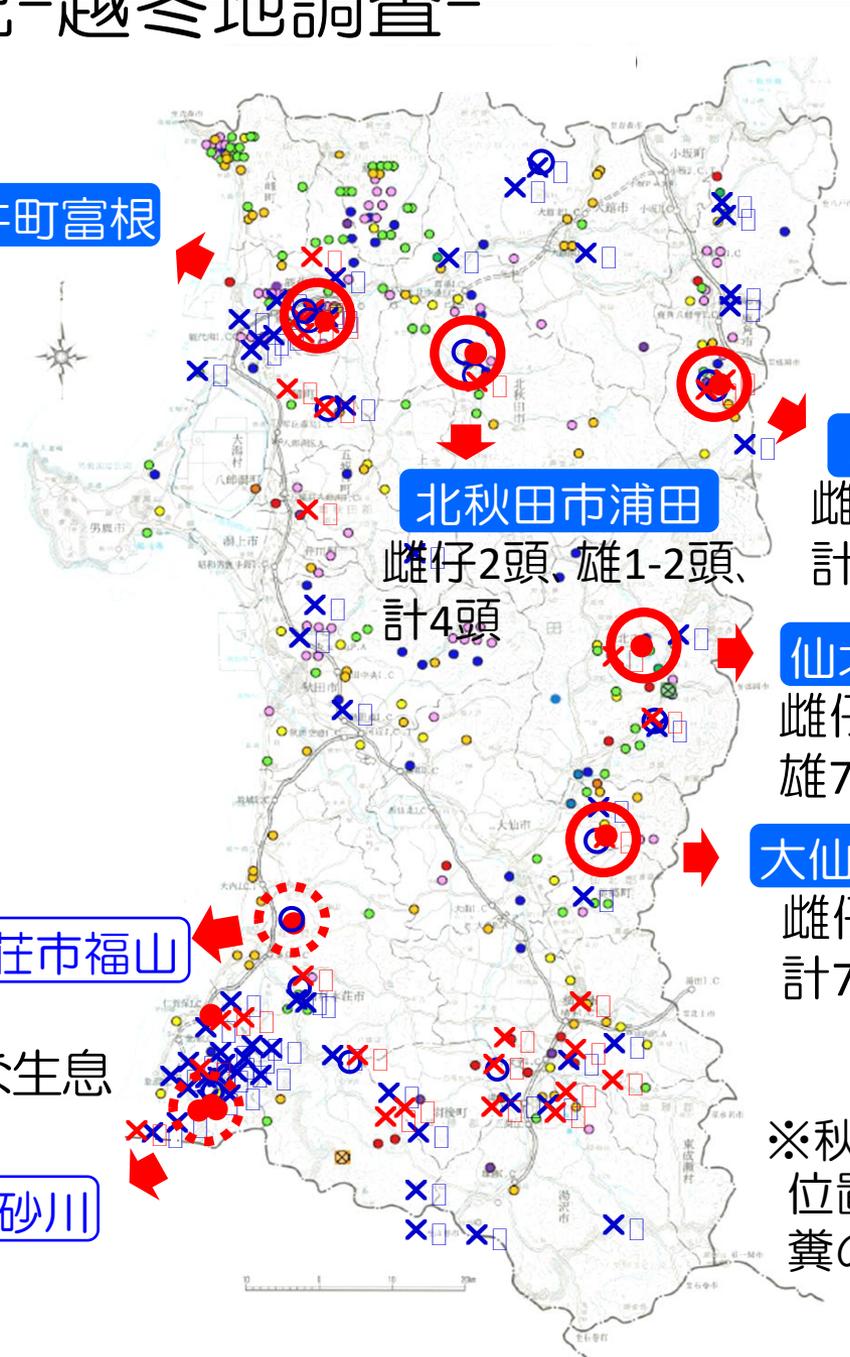
- 採餌箇所が限られる
- 雪による行動制約

越冬地（冬期滞在地点）  
で集団化する



# 2. 秋田県の状況-越冬地調査-

- 8-11月採取陽性
- ×□ // 陰性
- 2-3月採取陽性
- ×□ // 陰性
- (赤) 両時期陽性  
⇒越冬候補地



能代市二ツ井町富根  
雄2頭

**越冬地判定箇所**  
 鹿角市八幡平  
 北秋田市浦田  
 能代市二ツ井町富根  
 仙北市田沢湖周辺  
 大仙市太田町川口

鹿角市八幡平  
 雌仔群5頭、雄6頭、  
 計11頭

北秋田市浦田  
 雌仔2頭、雄1-2頭、  
 計4頭

仙北市田沢湖周辺  
 雌仔群4~8頭4群、  
 雄7-13頭、計31-45頭

大仙市太田町川口  
 雌仔群4頭、雄3頭、  
 計7頭

由利本荘市福山

移動個体による一時的な生息

にかほ市象潟町小砂川

※秋田県のシカ目撃情報  
 位置図(H21-R2)に食痕・  
 糞の採取箇所を加えた

## 2. 秋田県の状況-越冬地の手がかかり-

樹木の剥皮



ササの食痕



フン



### 3. 剥皮被害について



#### 先行研究

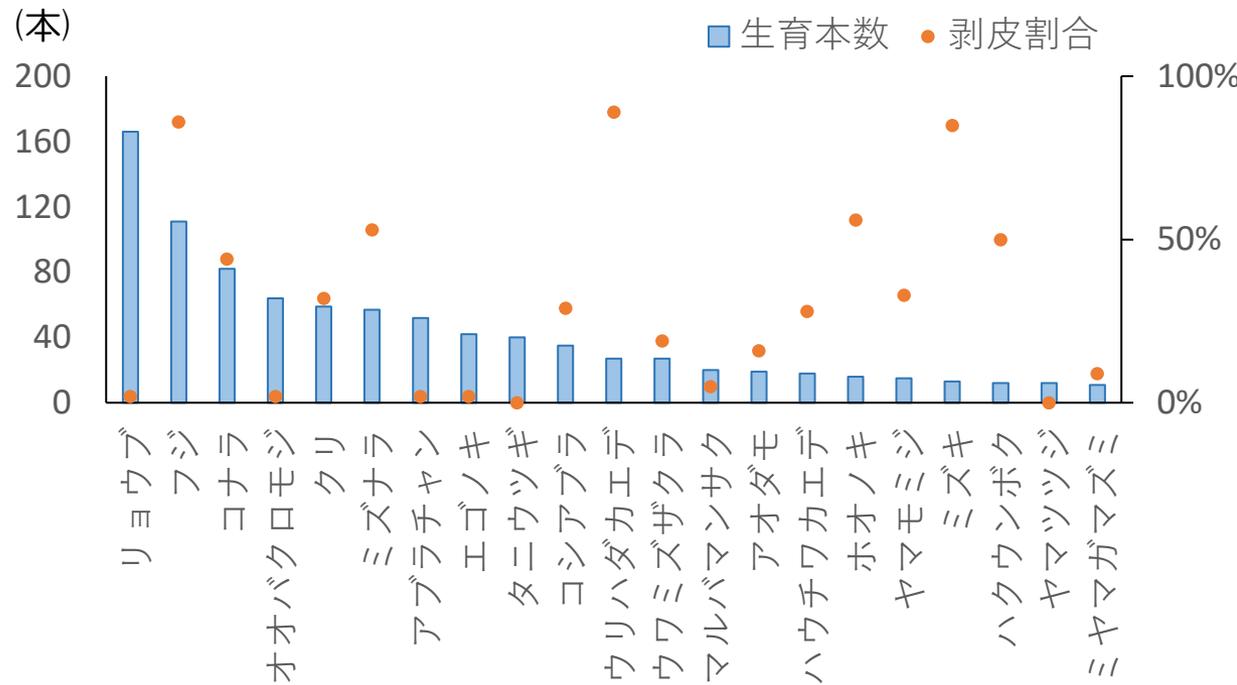
- 積雪地域ではシカによる剥皮が生じやすい
- シカの剥皮には嗜好性がある  
(剥皮されやすい樹種がある)



# 3. 剥皮被害について

## ○調査結果

樹種	生育本数 (本)	剥皮本数 (本)	剥皮割合 (%)
リョウブ	166	4	2
フジ	111	95	86
コナラ	82	36	44
オオバクロモジ	64	1	2
クリ	59	19	32
ミズナラ	57	30	53
アブラチャン	52	1	2
エゴノキ	42	1	2
タニウツギ	40	0	0
コシアブラ	35	10	29
ウリハダカエデ	27	24	89
ウワミズザクラ	27	5	19
マルバマンサク	20	1	5
アオダモ	19	3	16
ハウチワカエデ	18	5	28
ホオノキ	16	9	56
ヤマモミジ	15	5	33
ミズキ	13	11	85
ハクウンボク	12	6	50
ヤマツツジ	12	0	0
ミヤマガマズミ	11	1	9
合計	898	267	30



秋田県ではフジ、ウリハダカエデ、ミズキに対する嗜好性が高い可能性

(他県で剥皮されやすいと報告されているリョウブは、ほとんど剥皮されなかった)

※生育本数が10本に満たない樹種は集計から除外

# 4. 今後の展望

シカの痕跡の少ない林分



シカの痕跡の多い林分



剥皮された低木



葉が食べられ稈だけになったササ



シカが多い林分では特定の植物が優先して食べられるため植生変化が生じる  
→その変化を調査することでシカの生息密度の濃淡を推定できる

# 4. 今後の展望

## ●シカ密度の濃淡推定法の確立（R5-9）

### 目的

低密度下においてシカの食圧による植生変化から、シカ密度の濃淡を推定する方法を確立する

### 概要

#### 1. 高密度地域の把握

越冬地における生息状況の確認(仙北市、鹿角市、大館市)

#### 2. 植生変化の解明

- 植生の経時的変化の把握
- 嗜好性植物の解明
- スギ剥皮害の発生環境の解明

#### 3. 秋田県版シカ密度の濃淡推定法の確立

越冬地における密度濃淡マップの作成